

科目名	機械学習B						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	山下 文夫
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	機械学習ライブラリを使用して学習データから学習モデルを作成する方法を学ぶ。						
	iCDタスクコード		AI03.3.1、AI03.3.2、AI03.3.3				
授業形式	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				機械学習のアルゴリズムを説明できる	
		○				機械学習に使用される用語の意味を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	アイデミー『機械学習&ディープラーニングのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書』技術評論社、2019 『AI・機械学習入門』インフォテック・サーブ、2021						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-2	ロジスティック回帰分析(乳がん判定)					
	3-4	分析結果の評価、混同行列					
	5-6	サポートベクトルマシン					
	7-8	非線形分離(乳がん判定)					
	9-10	ハイパーパラメータチューニング					
	11-12	機械学習の基本ワークフロー					
	13-14	機械学習アルゴリズムの選択					機械学習の基本ワークフローを復習すること
	15-16	データ整形(タイタニック号乗客の生存)					
	17-18	深層学習					
	19-20	ニューラルネットワークの学習の仕組み					
	21-22	深層学習のアルゴリズム					
	23-24	CNNの構築					
	25-26	MNISTデータの使用					
	27-28	MNISTデータの加工					
	29-30	CNNによるMNISTの文字判別					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○	◎				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	ディープラーニング演習 I						
科目名(英)							
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	久家 政人
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	ディープラーニングの概念やアルゴリズムの知識を学び、ライブラリを使った処理を実装を通じて学ぶ。 (TensorFlowとKerasを使ったPythonによる実装)						
	iCDタスクコード		AI03.3.1、AI03.3.2、AI03.3.3				
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				機械学習の主要なアルゴリズムを説明できる	
		○				PythonのKerasライブラリを用いた機械学習プログラミングができる	
テキスト・教材 参考図書	谷岡 広樹, 康 鑫 『いちばんやさしい ディープラーニング 入門教室』 ソーテック社、2018						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-3	ディープラーニングと機械学習					
	4-6	Pythonの準備と基本文法					
	7-9	TensorFlow、Keras					
	10-12	ニューラルネットワーク					
	13-15	ニューロンとパーセプトロン					
	16-18	活性化関数					
	19-21	犬と猫の分離					
	22-24	損失関数					
	25-27	勾配法					
	28-30	誤差逆伝播法(バックプロパゲーション)					
	31-33	MNISTとは					
	34-36	畳み込みニューラルネットワーク					
	37-39	深層畳み込みニューラルネットワーク					
	40-42	プーリング層、全結合層					
	43-45	オーバーフィッティングとドロップアウト					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	◎				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	Webプログラミング演習ⅡB							
科目名(英)								
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	小井手 武治	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	前期に引き続き、PHPを活用したWebアプリケーション開発の修得を目指す。より実践的でより効率的なプログラミング開発を行い、技術力の習得を目指す。本格的なWebアプリケーションを作成する。							
	iCDタスクコード		DV08.5.3, DV08.5.4, DV08.6.1					
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	◎				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる		
		◎				本格的なWEBアプリケーションを作成できる		
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1-6	Chapter6 データベースの基本と操作(1)、(2)の復習					しっかり復習しておくこと	
	7-12	Chapter6 商品一覧を表示する・Chapter6 商品データを検索する						
	13-18	Chapter6 商品データを追加する・Chapter6 商品データを更新する						
	19-24	Chapter6 商品データを削除する・Chapter6 まとめ						
	25-30	確認テスト、Chapter7 商品や顧客などの情報を格納するデータベース					確認テストの勉強をしておくこと	
	31-36	Chapter7 サイトへのログイン・ログアウト処理						
	37-42	Chapter7 会員情報の登録						
	43-48	Chapter7 ショッピングカート、お気に入り商品に登録する						
	49-54	確認テスト、総合演習1					確認テストの勉強をしておくこと	
	55-60	総合演習2						
	61-66	総合演習3						
	67-72	総合演習4						
	73-78	総合演習5						
	79-84	総合演習6						
	85-90	総合演習7					課題を提出すること	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を2回実施する。(2)演習課題を5回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	確認テスト	◎	◎				25%	
	課題演習		◎	○	○		55%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。							

科目名	システム開発演習 I									
科目名(英)										
単位数	3単位		時間数		90時間		担当者		元田 真史	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	AIシステム構築のための要求定義、要件定義、モデル開発、本番実装・運用計画などをPBL(Project Based Learning)により実践的に学習する。									
	iCDタスクコード		AI01.3.1、AI01.3.2、AI03.4.2							
授業形式	講義：△		演習：		実習：○		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				AIシステムの開発の流れを説明することができる。				
		○				要求・要件を文章としてまとめることができる。				
		○				顧客の要望に基づいて、AIのプロトタイプを開発することができる。				
		○		○		開発した成果物を意思決定者にプレゼンテーションすることができる。				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション、要求定義								
	2-4	要件定義								
	5-8	モデル開発1(データ前処理)								
	9-12	モデル開発2(モデリング)								
	13-16	モデル開発3(精度評価)								
	17-19	本番実装・運用方法の検討					プレゼンテーションの練習をすること(2時間)			
	20	本実装に向けたプレゼンテーション								
	21-22	チャットボット作成のハンズオン					チャットボットの活用事例を調べること(1時間)			
	23	チャットボットシステムの要件定義								
	24-33	モデル開発／システム設計								
	34-36	システム結合								
	37-42	システムテスト					プレゼンテーションの練習をすること(2時間)			
	43	プレゼンテーション資料作成								
	44	成果発表					成果物を整理してまとめること(1時間)			
	45	成果物提出								
評価方法	(1)成果物の提出を数回実施する。(2)企業レビューを実施する。(3)受講状況を評価する。 ※公欠などやむを得ない理由以外での企業レビューの欠席は大幅な減点とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	成果物			◎				60%		
	レビュー			○		○		20%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない。PCを持参すること(学校PCでも可)。 提出期限の遅延や基準を満たさない場合は減点・補習・追加課題を行う場合がある。 企業レビューは公欠などやむを得ない理由を除き、必ず参加すること。									

科目名	ゼミナールⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	元田 真史
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	自己解決能力の向上を図るために、自分が興味のあるICT技術について研究・調査し、成果発表をする。 チームでのスケジュールリングや問題解決力の向上を図るために、長期にわたるグループワークを実践する。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		◎	○	○		他者とのコミュニケーションが取れる	
		◎		○		問題解決に向けてチーム作業をおこない成果をまとめることができる	
		◎		○		スケジュールをたてて行動することができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 後期のターム確認 チーム結成				後期の目標を決めよう	
	2	ICT技術研究1					
	3	ICT技術研究2					
	4	ICT技術研究3					
	5	結果報告				研究成果をまとめておくこと・発表練習をしておくこと	
	6	チーム結成					
	7	ICT技術研究1					
	8	ICT技術研究2					
	9	ICT技術研究3					
	10	結果報告				研究成果をまとめておくこと・発表練習をしておくこと	
	11	チーム結成					
	12	ICT技術研究1					
	13	ICT技術研究2					
	14	ICT技術研究3					
	15	結果報告				研究成果をまとめておくこと・発表練習をしておくこと	
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)成果物の成果発表を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		40%
	成果発表		◎	○	○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	逢坂 美千代	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形式	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○		○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる		
		○		○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる		
テキスト・教材 参考図書	前田 鎌利 『プレゼン資料のデザイン図鑑』 ダイアモンド社、2019							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か						
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識						
	3	企画立案・情報収集法						
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点						
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	15	まとめ						
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。(2)プレゼンシートを評価する。(3)発表を評価する。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	課題・レポート提出		◎		○		30%	
	プレゼンシート		◎				30%	
	発表		◎		○		20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。							

科目名	クラウド											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		打越 直美・高倉 美哉		
実施年度	2022年度			実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年											
授業概要	クラウドの概念、AWS の主要なサービス、料金、セキュリティ、アーキテクチャ、サポートに関する全体像を詳細に説明する。											
	iCDタスクコード			該当なし								
授業形式	講義：○			演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				クラウドに関する基本用語、仕組みを説明できる。						
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本用語、仕組みを説明できる。						
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本的な設定ができる。						
テキスト・教材 参考図書	AWS Academy Cloud Foundations											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	コース紹介、モジュール1：クラウドのコンセプト										
	2	モジュール2：クラウドエコノミクスと請求										
	3	モジュール3：AWS グローバルインフラストラクチャの概要										
	4	モジュール4：クラウドのセキュリティ										
	5,6	モジュール5：ネットワークとコンテンツ配信										
	7,8	モジュール6：コンピューティング										
	9,10	モジュール7：ストレージ										
	11,12	モジュール8：データベース										
	13,14	モジュール9：クラウドアーキテクチャ										
	15	モジュール10：Auto Scalingとモニタリング										
	評価方法	(1)確認テストをモジュール毎に実施 (2)受講状況を評価する (3)定期試験(筆記) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
確認テスト		○		◎								25%
受講状況								◎				25%
定期試験(筆記)				◎								50%
履修上の注意												

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	畠添 正和	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説＆練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説＆練習問題を行う ⇒ 授業内評価テスト(2回)を実施する ③ 漢字対策 : 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認 を行う						
	iCDタスクコード			該当なし			
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	5	授業内評価テスト①(CAB一連テスト)、漢字対策(その4)					
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	7	授業内評価テスト②(GAB一連テスト) SPI数学分野及び国語分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野及び国語分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野及び国語分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野及び国語分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野及び国語分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及び SPI模擬テスト(textの別冊1)					
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ					
	15	SPI数学分野及びSPI国語分野の復習、定期試験対策					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で授業内評価テスト(30分間・2回)を実施する。(3)授業の中で、SPI国語分野の補完として、漢字対策を実施する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験対策秋対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	20時間		担当者	姫野 マリ
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	6～10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策春対策B									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		24時間		担当者		川野 啓祐・姫野 マリ	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年									
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1～6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
	7～12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	◎				60%			
	確認テスト	○	◎				20%			
	受講状況				◎		20%			
履修上の注意										